



休憩中に、裏千家・前家元でもあられる、千玄室氏がみずからお茶をおたてになるサプライズもありました。

2020-21年度 国際ロータリー会長代理

千 玄室(京都RC) 特別講演 「不易流行 ロータリーで豊かな人生」

裏千家の後継ぎとして生を受けた私にも、戦時には招集がかりました。理系の学生達は国の技術を守るために残されましたが、私を含め文系の学生達は戦地へと送り込まれる運命でした。私は海軍に配属され、志願して特別攻撃隊として鹿屋に赴いたときは、「私はもうここで死ぬのかな」と思いましたが、数日間の待機命令の後に松山の基地に配属・終戦となったため、私は生き残ることとなったのです。今から500年前の戦国時代に、千利休は豊臣秀吉に「不易流行、それぞれの時代にはそれぞれの時代の流れがあります。」と助言したそうです。流れに翻弄されないようまず自分の足元を固める、そしてそこから時代の流れに沿って新しい想像力を形にする、それが不易流行の哲学だと考えます。日本は戦争には負けましたが、ここまで発展を遂げてこられたのは、まさに国をあげて不易流行を実践してきたからではないでしょうか。日本のロータリーは100年の歴史を持ちます。そして私たちロータリーには歴史と世代を超えて対等に親しくできる環境が整っています。過去の戦争を顧みて未来を見据える私たちロータリアンは、個々の力は小さいけれども、9万人を超える日本のロータリアンの力を結集することで世界を豊かに変えることができるはずです。コロナ禍を乗り越えて再びロータリアンが立ち上がる為に必要なことは、「**謙虚さ**」そして「**柔軟さ**」です。ロータリアンは「奉仕」を実践することで、自己の職業以外の場で自らを豊かにすることができます。そして奉仕とは、金銭や知識を単に提供するだけでなく、ロータリーを通じて奉仕を実際に「実践できる人」になることを言います。私は国連親善大使として飢餓や暴力で次々に死んでゆく子供たちの現状を改善するべく活動してきましたが、残念ながら国連は全ての常任理事国が賛成しない限り行動を起こせません。不易流行＝柔軟性を兼ね備えた私たちロータリーこそ、世界を変える行動人になることができるのです。「未来形成 (シェイピング・ヒューチャー)」私たちロータリアンは世界を変える為の組織や仕組みをしっかりと整え、そして世界に向けて集团的に実践することが私たちに課せられた任務・責務であると思うのです。



鹿屋西RCの元気なスタッフたち



フォトコンテスト パネル展示をバックに



呈茶のご提供(淡交会鹿兒島支部の皆様)

地区大会の様子は
YouTubeで
ご覧になれます



◀地区大会の閲覧は、
2730地区のHPから
進むことができます。